

2021/8/16

## 柏の景気情報(令和3年7月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報(令和3年7月分)

○ 調査期間 : 令和3年7月21日 ~ 令和3年8月6日

○ 調査対象 : 柏市内129事業所及び組合にヒアリング

### <産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	129	85	65.9%
建設	31	16	51.6%
製造	35	25	71.4%
卸・小売	38	29	76.3%
サービス	25	15	60.0%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【令和3年7月の業況についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.5(前月水準▲19.3)となり、マイナス幅が4.2ポイント拡大した。

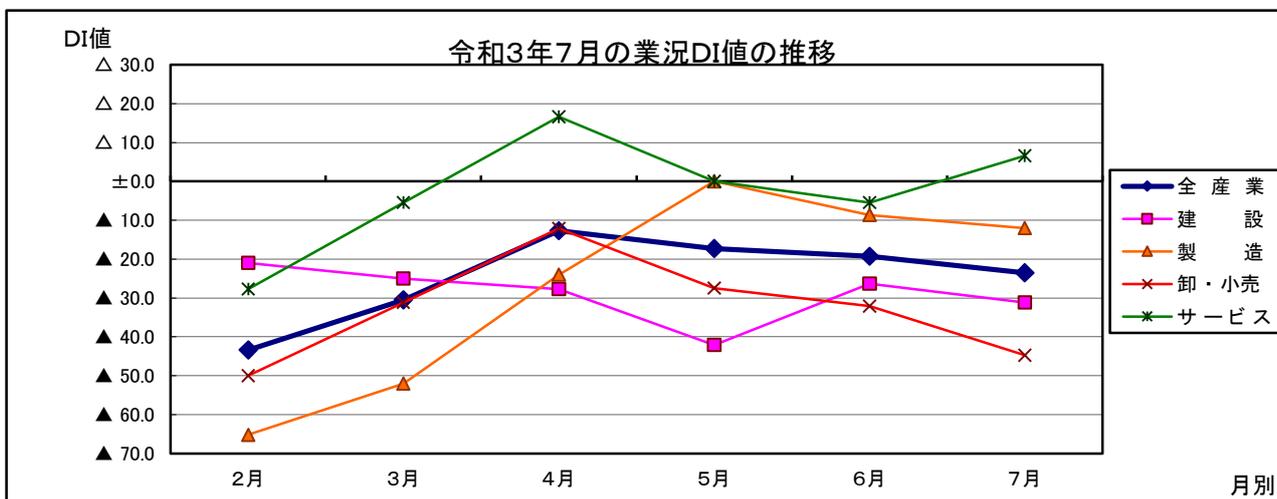
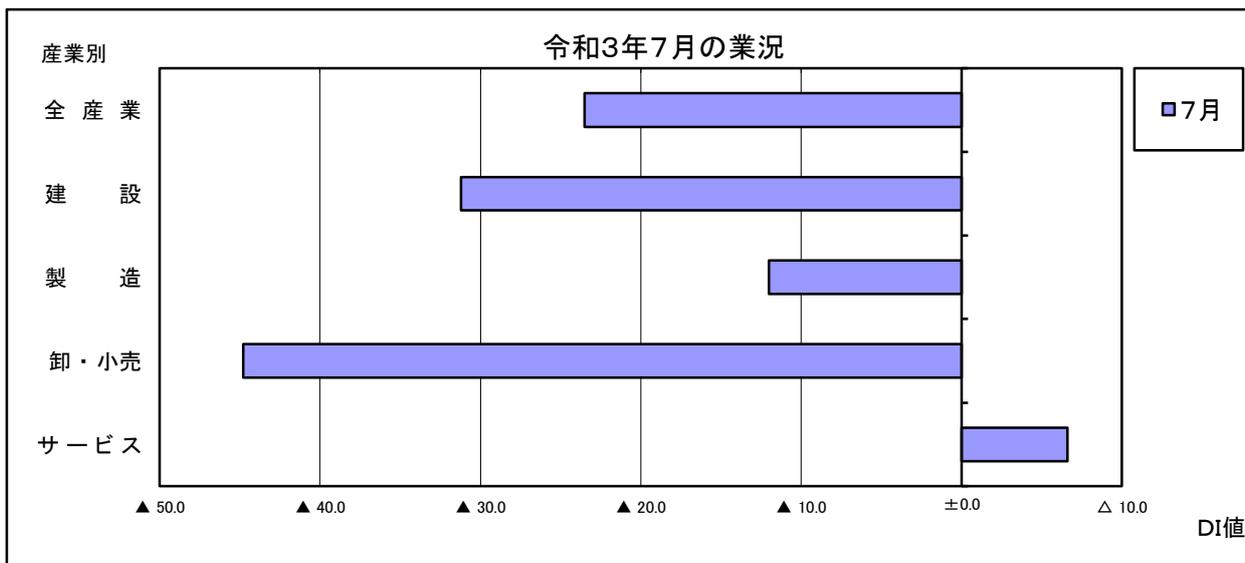
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△6.6(同▲5.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.8(同▲32.1)、建設業▲31.2(同▲26.3)、製造業▲12.0(同▲8.6)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.1(前月水準▲20.4)となり、マイナス幅が0.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△6.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲37.9(同▲42.8)、製造業▲4.0(同▲8.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲43.7(同▲21.0)である。

令和3年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	令和3年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲43.4	▲30.5	▲12.7	▲17.3	▲19.3	▲23.5	▲21.1(▲20.4)
建設	▲21.0	▲25.0	▲27.7	▲42.1	▲26.3	▲31.2	▲43.7(▲21.0)
製造	▲65.2	▲52.0	▲24.0	±0.0	▲8.6	▲12.0	▲4.0(▲8.6)
卸・小売	▲50.0	▲31.2	▲12.1	▲27.5	▲32.1	▲44.8	▲37.9(▲42.8)
サービス	▲27.7	▲5.5	△16.6	±0.0	▲5.5	△6.6	△6.6(±0.0)



【令和3年7月の売上についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.0(前月水準▲13.6)となり、マイナス幅が13.4ポイント拡大した。

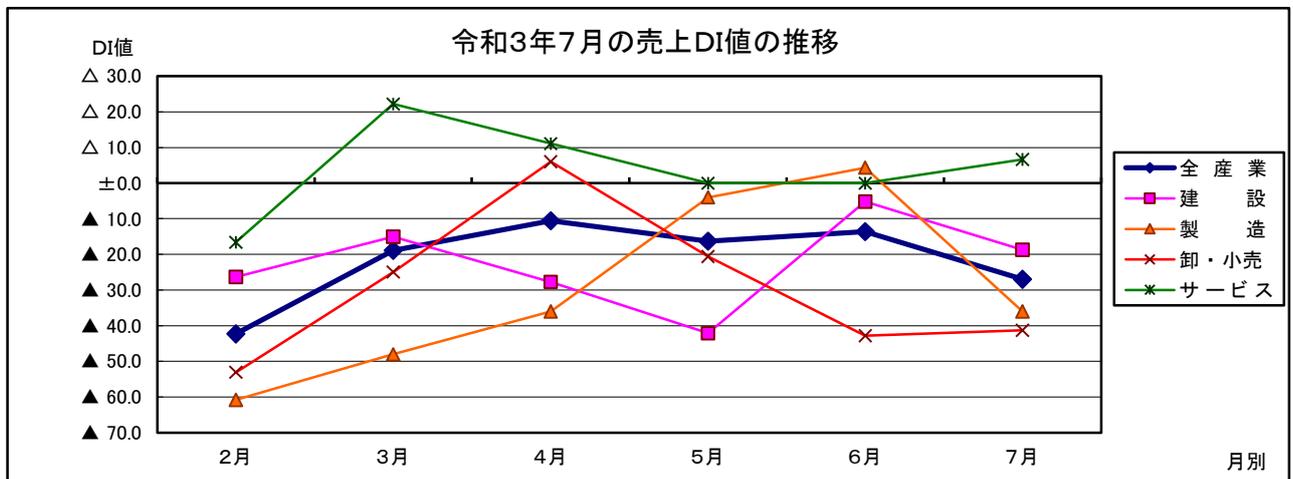
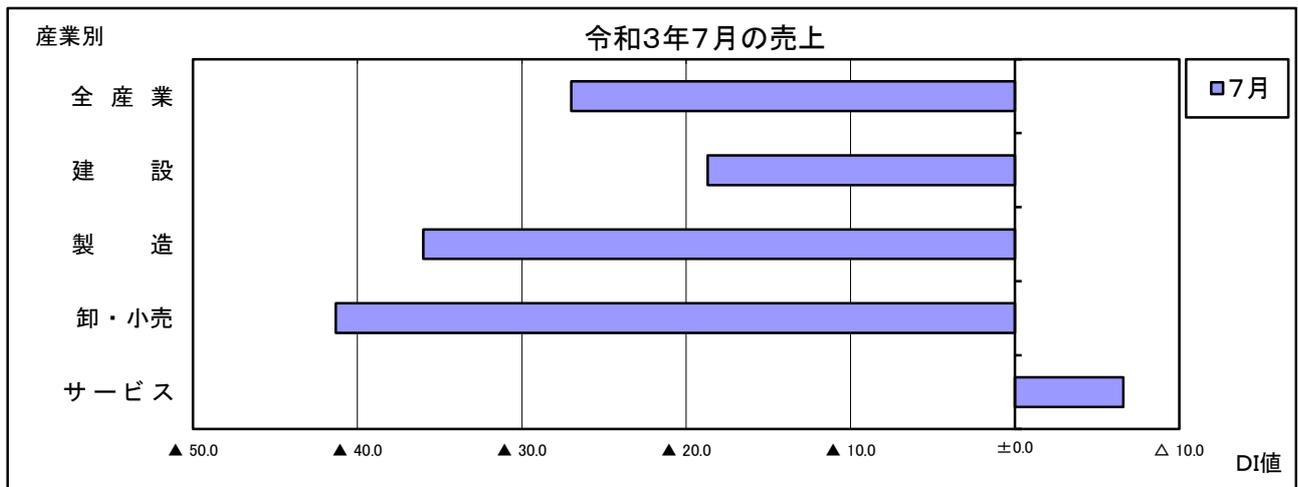
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△6.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲41.3(同▲42.8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲36.0(同△4.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲18.7(同▲5.2)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.0(前月水準▲9.0)となり、マイナス幅が11.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△13.3(同△16.6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲8.0(同△4.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲37.5(同▲10.5)、卸小売業▲37.9(同▲35.7)である。

令和3年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	令和3年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲42.3	▲18.9	▲10.6	▲16.3	▲13.6	▲27.0	▲20.0(▲9.0)
建設	▲26.3	▲15.0	▲27.7	▲42.1	▲5.2	▲18.7	▲37.5(▲10.5)
製造	▲60.8	▲48.0	▲36.0	▲4.0	△4.3	▲36.0	▲8.0(△4.3)
卸・小売	▲53.1	▲25.0	△6.0	▲20.6	▲42.8	▲41.3	▲37.9(▲35.7)
サービス	▲16.6	△22.2	△11.1	±0.0	±0.0	△6.6	△13.3(△16.6)



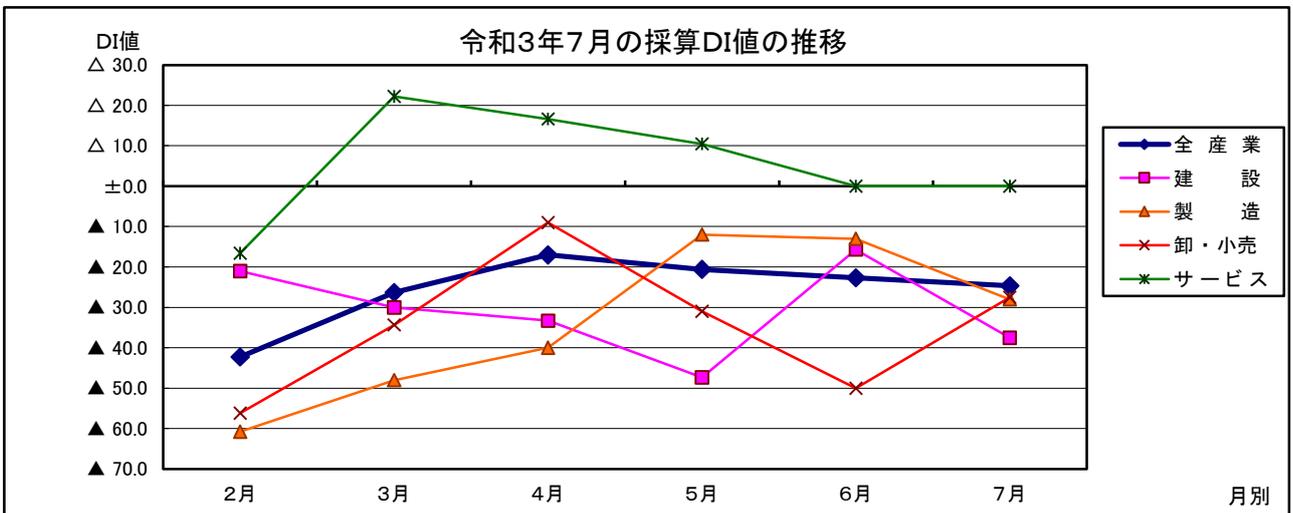
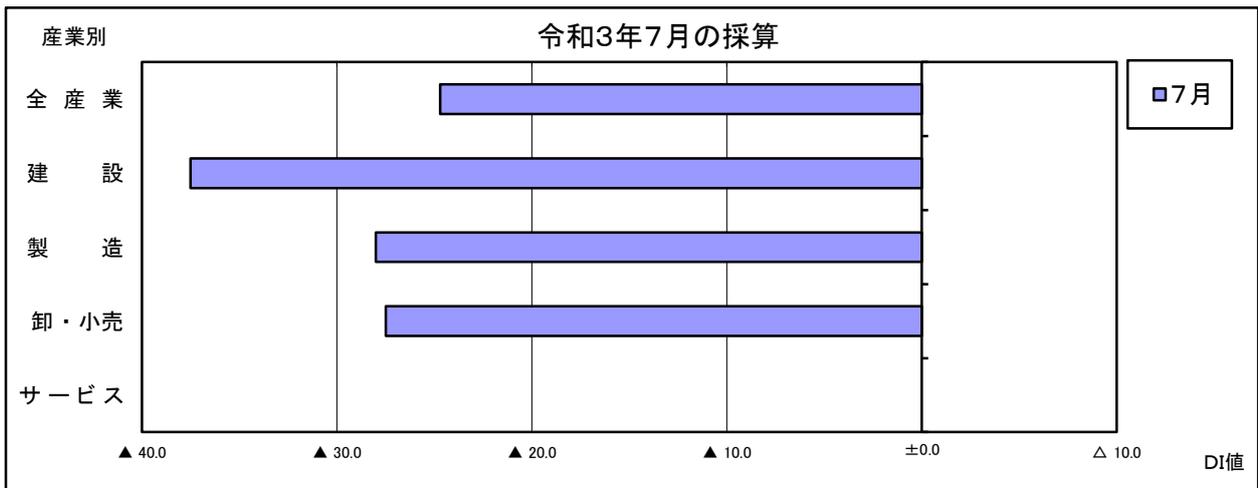
【令和3年7月の採算についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.7(前月水準▲22.7)となり、マイナス幅が2.0ポイント拡大した。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲27.5(同▲50.0)である。変らない業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲37.5(同▲15.7)、製造業▲28.0(同▲13.0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.0(前月水準▲13.6)であり、マイナス幅が6.4ポイント拡大する見通しである。  
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△13.3(同△5.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲37.5(同▲15.7)、製造業▲8.0(同±0.0)、卸小売業▲37.9(同▲35.7)である。

令和3年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	令和3年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲42.3	▲26.3	▲17.0	▲20.6	▲22.7	▲24.7	▲20.0(▲13.6)
建設	▲21.0	▲30.0	▲33.3	▲47.3	▲15.7	▲37.5	▲37.5(▲15.7)
製造	▲60.8	▲48.0	▲40.0	▲12.0	▲13.0	▲28.0	▲8.0(±0.0)
卸・小売	▲56.2	▲34.3	▲9.0	▲31.0	▲50.0	▲27.5	▲37.9(▲35.7)
サービス	▲16.6	△22.2	△16.6	△10.5	±0.0	±0.0	△13.3(△5.5)



【令和3年7月の仕入単価についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲38.8(前月水準▲42.0)となり、マイナス幅が3.2ポイント縮小した。

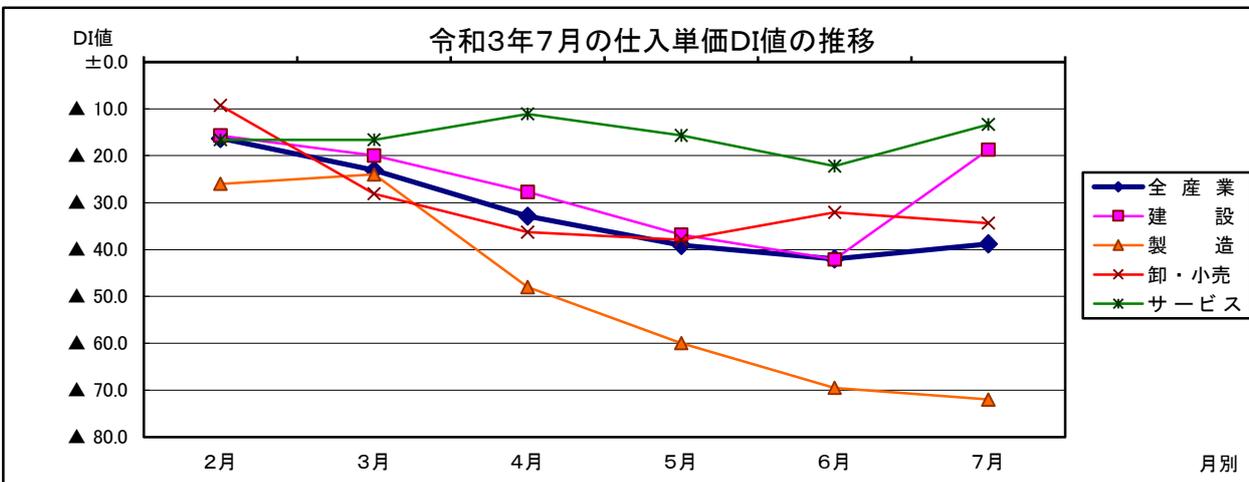
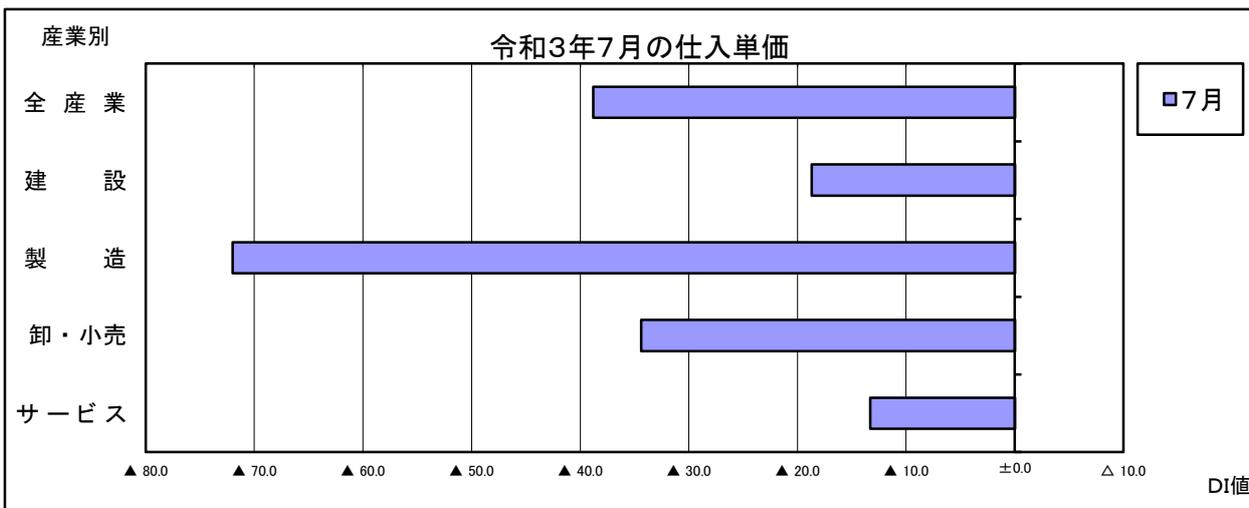
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲18.7(同▲42.1)、サービス業▲13.3(同▲22.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲72.0(同▲69.5)、卸小売業▲34.4(同▲32.1)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲41.1(前月水準▲40.9)となり、マイナス幅が0.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲31.2(同▲42.1)、サービス業▲13.3(同▲22.2)、製造業▲60.0(同▲65.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲44.8(同▲32.1)である。

令和3年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	令和3年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲16.3	▲23.1	▲32.9	▲39.1	▲42.0	▲38.8	▲41.1(▲40.9)
建設	▲15.7	▲20.0	▲27.7	▲36.8	▲42.1	▲18.7	▲31.2(▲42.1)
製造	▲26.0	▲24.0	▲48.0	▲60.0	▲69.5	▲72.0	▲60.0(▲65.2)
卸・小売	▲9.3	▲28.1	▲36.3	▲37.9	▲32.1	▲34.4	▲44.8(▲32.1)
サービス	▲16.6	▲16.6	▲11.1	▲15.7	▲22.2	▲13.3	▲13.3(▲22.2)



【令和3年7月の従業員についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、 $\Delta 7.0$ (前月水準 $\Delta 4.5$ )となり、プラス幅が2.5ポイント拡大した。

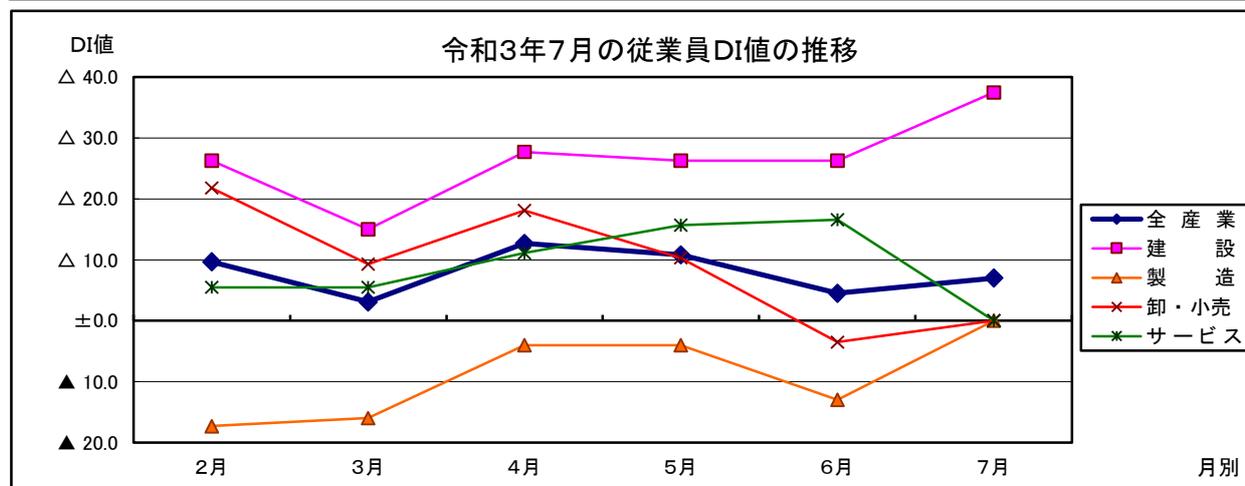
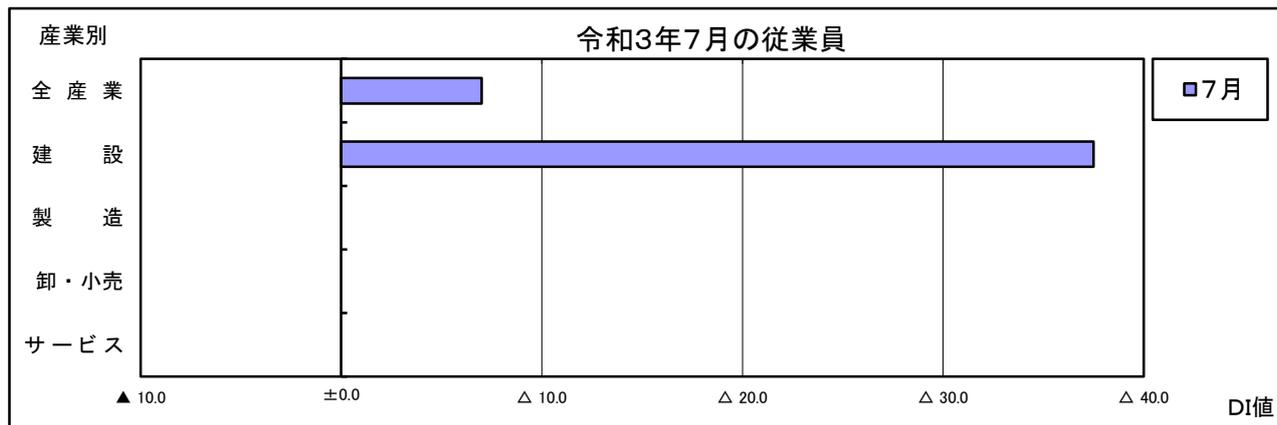
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業 $\Delta 37.5$ (同 $\Delta 26.3$ )である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業 $\pm 0.0$ (同 $\blacktriangle 13.0$ )、卸小売業 $\pm 0.0$ (同 $\blacktriangle 3.5$ )である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業 $\pm 0.0$ (同 $\Delta 16.6$ )である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、 $\Delta 12.9$ (前月水準 $\Delta 10.2$ )となり、プラス幅が2.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業 $\Delta 37.5$ (同 $\Delta 31.5$ )である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、卸小売業 $\Delta 6.8$ (同 $\blacktriangle 3.5$ )である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業 $\Delta 13.3$ (同 $\Delta 16.6$ )、製造業 $\Delta 4.0$ (同 $\Delta 4.3$ )である。

令和3年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	令和3年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	$\Delta 9.7$	$\Delta 3.1$	$\Delta 12.7$	$\Delta 10.8$	$\Delta 4.5$	$\Delta 7.0$	$\Delta 12.9$ ( $\Delta 10.2$ )
建設	$\Delta 26.3$	$\Delta 15.0$	$\Delta 27.7$	$\Delta 26.3$	$\Delta 26.3$	$\Delta 37.5$	$\Delta 37.5$ ( $\Delta 31.5$ )
製造	$\blacktriangle 17.3$	$\blacktriangle 16.0$	$\blacktriangle 4.0$	$\blacktriangle 4.0$	$\blacktriangle 13.0$	$\pm 0.0$	$\Delta 4.0$ ( $\Delta 4.3$ )
卸・小売	$\Delta 21.8$	$\Delta 9.3$	$\Delta 18.1$	$\Delta 10.3$	$\blacktriangle 3.5$	$\pm 0.0$	$\Delta 6.8$ ( $\blacktriangle 3.5$ )
サービス	$\Delta 5.5$	$\Delta 5.5$	$\Delta 11.1$	$\Delta 15.7$	$\Delta 16.6$	$\pm 0.0$	$\Delta 13.3$ ( $\Delta 16.6$ )



【令和3年7月の資金繰りについての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15. 2(前月水準▲9. 0)となり、マイナス幅が6. 2ポイント拡大した。

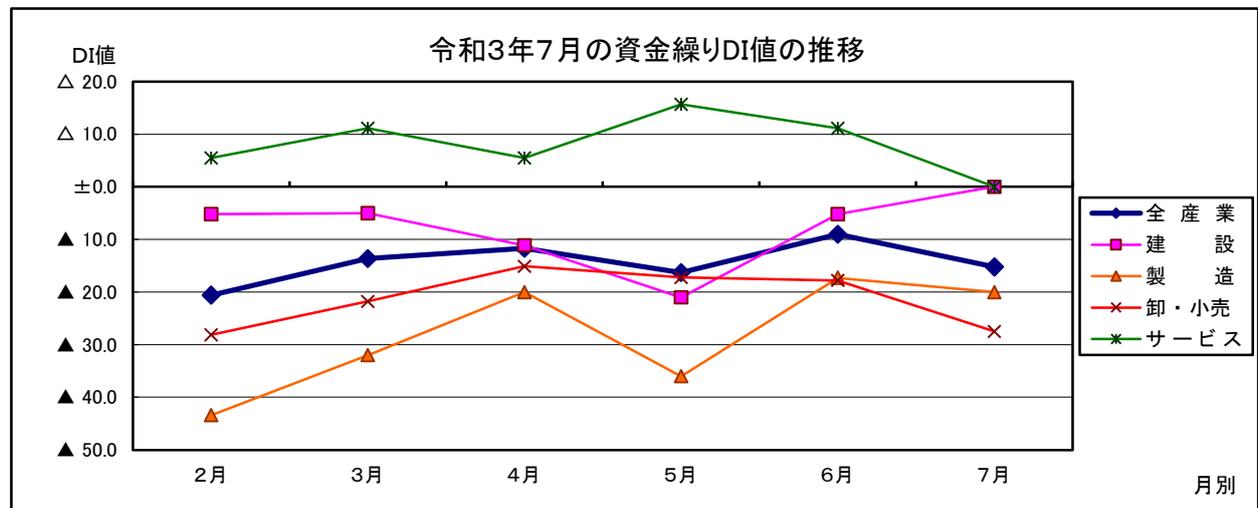
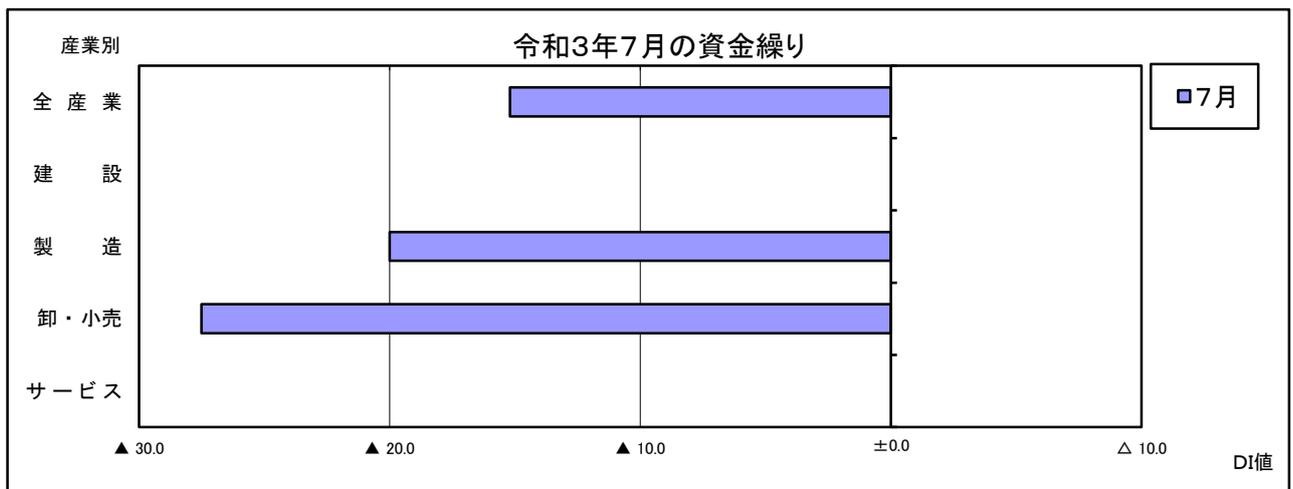
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業±0. 0(同▲5. 2)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0. 0(同△11. 1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲27. 5(同▲17. 8)、製造業▲20. 0(同▲17. 3)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲18. 8(前月水準▲15. 9)となり、マイナス幅が2. 9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲16. 0(同▲17. 3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲27. 5(同▲21. 4)、建設業▲18. 7(同▲15. 7)、サービス業▲6. 6(同▲5. 5)である。

令和3年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	令和3年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲20.6	▲13.6	▲11.7	▲16.3	▲9.0	▲15.2	▲18.8(▲15.9)
建設	▲5.2	▲5.0	▲11.1	▲21.0	▲5.2	±0.0	▲18.7(▲15.7)
製造	▲43.4	▲32.0	▲20.0	▲36.0	▲17.3	▲20.0	▲16.0(▲17.3)
卸・小売	▲28.1	▲21.8	▲15.1	▲17.2	▲17.8	▲27.5	▲27.5(▲21.4)
サービス	△5.5	△11.1	△5.5	△15.7	△11.1	±0.0	▲6.6(▲5.5)



【令和3年7月の調査結果のポイント】

《全産業DIは3か月連続で悪化。再びまん延防止等重点措置の実施エリアとなり、感染症拡大への憂慮は続く》

7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.5(前月水準▲19.3)となり、マイナス幅が4.2ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△6.6(同▲5.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.8(同▲32.1)、建設業▲31.2(同▲26.3)、製造業▲12.0(同▲8.6)である。

柏市は7月19日に再びまん延防止等重点措置の実施エリアとなった状況下、DI値が改善したサービス業から、学習塾で夏期講習の好調についてコメントがあった。一方で、酒類の提供制限が継続する中、ホテルや飲食店では厳しい状況が続いている。DI値が悪化したその他の業種からは、原材料の入手悪化や価格高騰、外出自粛により売上へ影響が出ているとコメントがあった。先行きDIは▲21.1(前月比▲2.4)と改善を見込む。ワクチン接種への期待感はあるが、千葉県での緊急事態宣言の発出や変異株の感染拡大など、憂慮は続く。

【建設業】からは、「社員全員が快適に働けるような畳工場を目指して、設備投資をしたい(畳)」、「新型コロナウイルスによる現場での仕事制限や、従業員の家族に陽性者が出て出勤できないなどの悪循環が重なり、仕事に大きく影響」(とび)、「緊急事態宣言が出たため景気後退は避けられない。コロナ不景気はまだまだ続くだろう(塗装工事)」などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「受注は好転してきており、昨年並の水準に上がってきているが、コロナや半導体不足、アメリカ寒波の影響の深刻度が強まり、資材等の入手悪化や価格上昇が続いているのが最大の懸念点。受注はあっても装置が製造できない事態になりかねない(機械・同部品)」、「コロナ対応に加えて熱中症対策も実施。客先の生産調整があり順調だった製品の売上が足踏み状態に。材料費が高騰し、上がり具合によっては価格に反映しなければならない(金属製品)」、「今期はコスメ関連の容器受注は壊滅状態(プラスチック加工)」、「飲食店の酒類提供自粛や時短営業の影響で、製造数量の減少が大きい。オリンピックも無観客となり売上が伸びない。現在も新規感染者が増加しており、今後も厳しい(酒類)」、「ワクチン接種が進まない中、外部からの感染が心配。コロナ対策もだが、社内マスク着用を義務化しているため、熱中症には万全な対策をとっている(鉄鋼)」、「原材料(金属・樹脂)の高騰が課題。また、デジタル人材が不足(金属素形材製品)」、「徐々に営業活動を再開しているが、第5波の到来、緊急事態宣言で8月31日まで出張禁止にした。プラスチック原料の高騰による顧客との値上げ交渉では、景気が影響し満額回答は無かった(化学工業)」、「6月から対前年比売上は、コロナ前の水準に戻った。オリンピックとコロナ変異株の状況、ワクチン接種のスピードが懸念材料(自動車付属品)」などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「再びまん延防止等重点措置区域となり、猛暑も重なり、買物は通販等で済ませられそう(各種商品小売)」、「ワクチンの普及で徐々にコロナの影響は落ち着きそう。しかし、以前のような飲食店での外食、イベント参加は少なくなると思う。家での生活をキーワードとして、在宅が快適になるグッズやサービスはまだまだ良くなると思う。食品スーパーとしても、家での食事が楽しく、意味のあるものにしていかなければならない(各種食料品小売)」、「巣ごもり関連商品は好調に推移しているが、外出着が昨年度よりもでも低迷。旅行に行けないので、地方銘菓などは非常に好調(大型小売店)」、「納品先でコストカットを実施しており、一部商品が打ち切りに。BtoB、BtoCともに生き残るのは大変だと思われた(農畜産物・水産物卸売)」などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「まん延防止等重点措置が一時的に解除されたが、酒類の提供時間は変わらなかったの、食堂の売上に効果が無かった(ホテル)」、「昨年に比べ、夏期講習の受講率がとても高い。経営的にはありがたいが、保護者や生徒の気のゆるみが心配(学習塾)」、「来年は駅前を中心に10～20年前と同じような直球の商業祭りをしてほしい(不動産賃貸)」、「売り物件が減少し、不動産の仕入価額、売買価額も上昇。取引件数が大幅に減り利益が減少している(不動産管理)」、「お酒の提供90分2名までと営業時間短縮により、夜の売上減少が大きい。8月の緊急事態宣言によりお酒の提供ができなくなることで、週末の慶事・法事に影響が出て、さらに売上減少が大きくなる(日本料理)」、「移動制限、テレワーク等で浮いた時間を仕事の勉強に当てている(不動産賃貸・管理)」などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲43.4	▲21.0	▲65.2	▲50.0	▲27.7
3月	▲30.5	▲25.0	▲52.0	▲31.2	▲5.5
4月	▲12.7	▲27.7	▲24.0	▲12.1	△16.6
5月	▲17.3	▲42.1	±0.0	▲27.5	±0.0
6月	▲19.3	▲26.3	▲8.6	▲32.1	▲5.5
7月	▲23.5	▲31.2	▲12.0	▲44.8	△6.6
見通し	▲21.1	▲43.7	▲4.0	▲37.9	△6.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 27.0	▲ 20.0	▲ 24.7	▲ 20.0	▲ 38.8	▲ 41.1	△ 7.0	△ 12.9
建設	▲ 18.7	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 18.7	▲ 31.2	△ 37.5	△ 37.5
製造	▲ 36.0	▲ 8.0	▲ 28.0	▲ 8.0	▲ 72.0	▲ 60.0	±0.0	△ 4.0
卸・小売	▲ 41.3	▲ 37.9	▲ 27.5	▲ 37.9	▲ 34.4	▲ 44.8	±0.0	△ 6.8
サービス	△ 6.6	△ 13.3	±0.0	△ 13.3	▲ 13.3	▲ 13.3	±0.0	△ 13.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 23.5	▲ 21.1	▲ 15.2	▲ 18.8
建設	▲ 31.2	▲ 43.7	±0.0	▲ 18.7
製造	▲ 12.0	▲ 4.0	▲ 20.0	▲ 16.0
卸・小売	▲ 44.8	▲ 37.9	▲ 27.5	▲ 27.5
サービス	△ 6.6	△ 6.6	±0.0	▲ 6.6

## 令和3年7月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.5に対し、「CCI-LOBO」が▲24.1で柏の方がマイナス幅が0.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.0に対し、「CCI-LOBO」が▲17.1で柏の方がマイナス幅が9.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.7に対し、「CCI-LOBO」が▲23.6で柏の方がマイナス幅が1.1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲38.8に対し、「CCI-LOBO」が▲38.6で柏の方がマイナス幅が0.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△7.0に対し、「CCI-LOBO」が△10.0で柏の方がプラス幅が3.0ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業、サービス業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.2に対し、「CCI-LOBO」が▲17.6で柏の方がマイナス幅が2.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業である。

【令和3年7月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設業	職員全員が快適に働けるような量工場を目指して、設備投資をしたい。	設備投資	量工事請負・量製造販売業
	新型コロナウイルスによる現場での仕事制限や、家族が陽性者となり従業員が仕事に來られないなどの悪循環が重なり、仕事に大きな影響が出ている。	新型コロナウイルスによる経営影響	とび
	緊急事態宣言の対象になってしまったので、景気後退は避けられない。コロナ不景気はまだまだ続くだろう。	緊急事態宣言	塗装工事業
製造業	依然としてコロナ禍の悪影響を受けており、コロナ禍前の水準には程遠い業績が続いている。	新型コロナウイルスによる業績悪化	電子応用装置製造業
	受注(引き合いを含む)に関しては好転してきており、昨年並みの水準まで上がってきているが、新型コロナウイルスの影響や半導体不足、アメリカ寒波の影響の深刻度が上がってきており、資材等の入手性悪化や価格の上昇が続いているのが最大の懸念点である。この先、受注はあっても装置が製造できない事態になりかねない。	受注・引き合い増加 半導体不足 アメリカ寒波による影響 材料等の入手悪化・価格上昇	機械・部品製造業
	新型コロナウイルス感染症の対応に加えて熱中症対策も実施。冷房の適正利用で従業員のよいパフォーマンスを維持したい。客先の生産調整があり順調だった製品の売上が足踏み状態となった。先月に続き材料費高騰。上がり具合では価格に反映しなければならない。	熱中症対策実施 売上停滞 材料費高騰による価格転嫁	金属製品
	前年度同月までは化粧品容器に関してコロナ以前の受注があったので、何とかしのいでいたが今期はコスメ関連は壊滅状態である。	コスメ関連容器受注壊滅状態	プラスチック加工
	緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による飲食店での酒類提供自粛や時短営業の影響で、製造数量の減少が大きい状態。オリンピックも無観客となりなかなか売り上げが伸びない。現在も新規感染者が増加しているため、今後についても厳しい状態が継続すると見込む。	酒類提供自粛による影響	酒類製造業
	オリンピック開催前は売上など増加でみていたが、緊急事態宣言になった場合、下方修正。ワクチン接種が進まない中、外部からの感染が心配。コロナ対策もだが、社内マスク着用を義務化しているため、熱中症には万全な対策をとっている。	コロナ感染への懸念 熱中症対策の実施	鉄鋼業
	原材料(金属・樹脂)の高騰が足もとの課題。人材不足は継続的な課題で、特にデジタル人材が不足している。	デジタル人材不足	金属素形材製品製造業
	前年同月、既にコロナの影響で前々年比半減以下。どこに基準をおいたらよいか考慮中である。	コロナによる売上減少	印刷業
	7・8月は年間における業績が最下位の月にあたる。業績向上のため事業・環境等、自社ができる取組を従業員と一緒に考える月にしたい。	業績向上への取組検討	印刷業
	コロナの感染状況と顧客の意向を見ながら徐々に営業活動を再開したが、第5波の到来、緊急事態宣言があり、8月31日まで出張禁止にした。向こう3か月の受注見込みに対しては、営業自粛の影響で現在受注分プラスαが見えない。プラスチック原料の高騰による顧客との値上げ交渉は終了したが、景気の影響もあり満額回答は無かった。引き続き自粛ムードの中、いかに情報収集・情報発信を行うことができるか必死に考えたい。	緊急事態宣言発出による出張禁止 受注増加見込み薄い プラスチック原材料高騰	化学工業
6月より対前年比売上の新型コロナウイルスによる影響は無くなった(取り敢えずコロナ禍以前の水準に戻った)。今後は、オリンピックの動向と新型コロナウイルス変異株の感染状況とワクチン接種のスピードがどうなるのかが懸念材料。	コロナの影響の改善 先行き不透明	自動車付属品製造業	
卸・小売業	再びまん延防止措置地域となり、猛暑も重なり買物は通販等で済ませられそう。	買い物の通販化	各種商品小売業
	ワクチンの普及で徐々にコロナの影響は落ち着いてくると感じる。しかしながら以前のような行動はしなくなり、飲食店での外食やイベントへの参加は少なくなると思う。キーワードは家での生活。家での生活が快適になるグッズやサービスはまだまだ良くなると思う。食品スーパーとしても、家での食事が楽しく意味あるものにしていかなければならない。	ワクチン普及 「家での生活」の充実	各種食料品小売業
	まん延防止等重点措置の発出によって、巣ごもり関連商品は好調に推移しているが、衣料品など外出着が昨年度に比べても低迷している。旅行自粛の影響で、食品の地方銘菓イベントは非常に好調。	巣ごもり関連商品好調 外出着不調 地方銘菓イベント好調	大型小売店
	一部商品の納入打ち切りがわかっており、短期的な売上減少を予測している。一部の納入先ではコストカットを実施しており、その煽りを受けた形である。価格に大きく左右されないバリューを見出さないとBtoB、BtoCともに生き残るのは大変だと思われた出来事だった。	短期的売上減少	農畜産物・水産物卸売業
	再度の緊急事態宣言で厳しい状況。 コロナ禍で厳しい状況が続いている。回復の見込みも無し。	業績悪化 業績悪化	洋品雑貨・小間物小売業 洋菓子店
サービス業	柏市はまん延防止等重点措置が一時的に解除されたが、酒類の提供時間は変わらなかった為食堂の売上には効果がなかった。	一時まん防対象地域除外も売上変化なし	ホテル
	今年はまだまん延防止等重点措置が適用されているにもかかわらず、昨年と比べて夏期講習の受講率がかなり高い。経営的にはありがたいことではあるが、保護者や生徒たちに気の緩みを感じられることが心配でもある。修学旅行が6月から8月に延期したが結局直前に中止となった一方でオリンピックは開催され、保護者や生徒たちの間には、憤りを乗り越えて諦めのようなものを感じられ、大変懸念している。	昨年比夏期講習の受講率増加	学習塾
	経営を考える社長が増えてきている。やはり昔のようなただ時間をかけて頑張れば何とかなる時代は終わりを告げているように感じる。		税理士
	来年は駅前を中心に10～20年前と同じような直球の商業祭りをしてほしい。	商業まつりの開催希望	不動産賃貸業
	売り物件が減少しているため、不動産の仕入価額も売買価額も上がっている。その影響で取引件数が大幅に減り利益が減少している。	仕入、売買価額上昇 取引数減少による利益減少	不動産管理業
お酒の提供90分2名までと営業時間短縮により、夜の売上減少が大きい。8月の緊急事態宣言によりお酒の提供が出来なくなることで、週末の慶事法事に影響が出て、さらに売上減少が大きくなる。	お酒の提供制限による売上減少	日本料理	
移動制限、テレワーク等で浮いた時間を仕事の勉強に当てている。	テレワーク等で空いた時間の活用	不動産賃貸・管理業	

# 令和3年7月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図	 特に好調 DI ≥ 50	 好調 50 > DI ≥ 25	 まあまあ 25 > DI ≥ 0	 不振 0 > DI ≥ ▲25	 極めて不振 ▲25 > DI
-------	--	---	--	--	--

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 23.5	 ▲ 31.2	 ▲ 12.0	 ▲ 44.8	 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 24.1	 ▲ 18.2	 ▲ 9.7	 ▲ 37.6	 ▲ 28.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 27.0	 ▲ 18.7	 ▲ 36.0	 ▲ 41.3	 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 17.1	 ▲ 14.3	 ▲ 2.5	 ▲ 34.9	 ▲ 19.2

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 24.7	 ▲ 37.5	 ▲ 28.0	 ▲ 27.5	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 23.6	 ▲ 17.6	 ▲ 11.8	 ▲ 36.0	 ▲ 28.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 38.8	 ▲ 18.7	 ▲ 72.0	 ▲ 34.4	 ▲ 13.3
店のほとんど	 ▲ 38.6	 ▲ 57.7	 ▲ 44.5	 ▲ 27.7	 ▲ 28.9

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 7.0	 37.5	 ±0.0	 ±0.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 10.0	 28.3	 5.5	 9.0	 6.7

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 15.2	 ±0.0	 ▲ 20.0	 ▲ 27.5	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 17.6	 ▲ 3.3	 ▲ 11.1	 ▲ 26.8	 ▲ 28.0

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(7月速報)

調査期間：2021年7月13日～19日

調査対象：全国の336商工会議所が2,663企業にヒアリング調査を実施

**全国の業況**  
業況DIは、持ち直しの動きも力強さ欠く。先行きは、変異株への警戒感から厳しい見方続く

7月の全産業合計の業況DIは、▲24.1と、前月から+2.6ポイントの改善。米国・中国向けの需要が堅調な半導体・電子部品関連や自動車関連の製造業が牽引したほか、飲食料品・家電製品など巣ごもり消費に下支えされた小売業の業況感が改善した。一方、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置に伴い、営業時間短縮などの活動制約が続く飲食業や観光関連のサービス業では、需要回復・業況改善が見通せず、厳しい状況が続く。また、卸売業を中心に食料品や鉄鋼などの原材料価格の上昇や、物流費のコスト増加の影響を指摘する声は多く、中小企業の景況感は持ち直しの動きがみられるものの、回復に力強さを欠く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲27.2（今月比▲3.1ポイント）と悪化を見込む。高齢者を中心と

したワクチン接種の進展により、経済活動の正常化に伴う需要の回復などに期待する声が聞かれる。一方、変異株による感染再拡大への警戒感が増す中、国・自治体からの活動制約要請の長期化に伴う受注・売上減少による業績悪化の継続や客足回復の遅れ、原油を含む資源・原材料価格の上昇などを要因とする採算悪化を懸念する企業は多く、先行きは依然として厳しい見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

**業種別にみると、**今月の業況DIは前月に比べ、卸売業で悪化、その他の業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

**【建設業】**「木材・鋼材の価格上昇や品不足の影響により、新規案件の受注に至らないケースが増えている」（一般工事業、「民間工事の受注低迷が続いており、公共工事の受注競争が厳しくなつて

いる。また、新型コロナウイルスの感染対策や熱中症対策などの衛生管理のコスト負担が増大している」（管工事業）

**【製造業】**「自動車用ワイヤハーネスなどの車載用部品の受注は堅調なもの、半導体不足による自動車メーカーの生産調整もあり、先行き不透明感強い」（電線・ケーブル製造業）、「昨年からおんライ販売に力を入れていることもあり、売上は改善。ただし、食用油や大豆などの原材料の仕入れ価格上昇が相次いであったため、今後は商品の販売価格の値上げや包装資材の見直しにより採算を確保していく」（菓子製造業）

**【卸売業】**「緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令された地域の飲食店への売上減少が続いている。量販店向けの売上は確保できているものの、低価格商品が中心のため、採算確保に苦慮している」（酒類卸売業）、「東南アジアにおける新型コロナウイルス感染拡大の影響により、合板の品不足が発生しているため、販売ができずに売上が激減している」（建築材料卸売業）

**【小売業】**「昨年から取り組んでいる新たな販促策の成果もあり、売上は増加しているものの、コロナ禍前の売上までは回復していない。年内に設備投資に踏み切るためにも、夏季商戦を乗り切りたい」（贈答品・生活雑貨小売業）、「巣ごもり需要による住まい関連の商品の売上は好調な一方、衣料品の売上の苦戦は続いている。先行きが見通せないコロナ禍での今秋に予定される最低賃金の引上げによる経営への影響を懸念している」（百貨店）

**【サービス業】**「地域のお祭りの規模縮小や宴会需要低迷による来店客数の減少が続く、厳しい経営状況が続いている」（飲食業）、「宅配需要増加に伴い、売上は改善。ただし、ガソリン価格が高騰しており、今後の採算悪化を懸念している」（運送業）

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲46.8	▲24.9	▲44.8	▲47.7	▲45.8	▲63.0
3月	▲35.3	▲18.4	▲33.6	▲35.0	▲33.9	▲48.5
4月	▲25.3	▲15.5	▲24.1	▲27.0	▲23.5	▲33.5
5月	▲25.0	▲18.9	▲15.0	▲23.9	▲31.6	▲33.5
6月	▲26.7	▲19.8	▲14.6	▲25.8	▲41.8	▲30.6
7月	▲24.1	▲18.2	▲9.7	▲28.3	▲37.6	▲28.9
見通し	▲27.2	▲22.9	▲17.2	▲28.7	▲36.5	▲31.3

# 柏の景気情報 (令和3年7月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

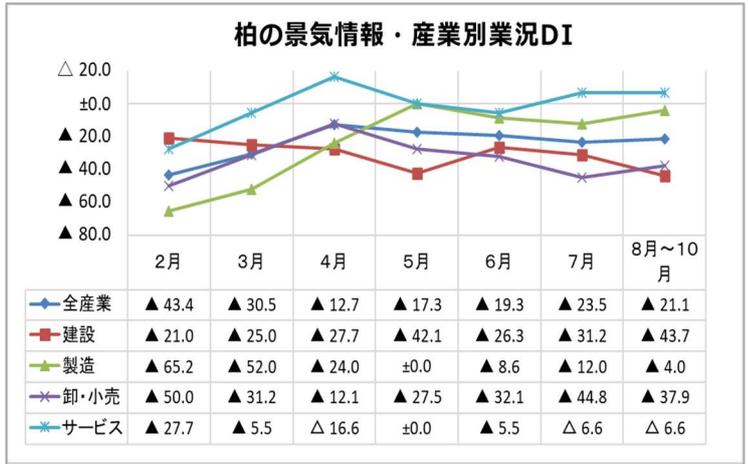
調査期間：令和3年7月21日～8月6日 調査対象：柏市内129事業所及び組合にヒアリング、回答数85件

### 全産業DIは3か月連続で悪化。再びまん延防止等重点措置の実施エリアとなり、感染症拡大への憂慮は続く

7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.5(前月水準▲19.3)となり、マイナス幅が4.2ポイント拡大した。

柏市は7月19日に再びまん延防止等重点措置の実施エリアとなった状況下、DI値が改善したサービス業から、学習塾で夏期講習の好調についてコメントがあった。一方で、酒類の提供制限が継続する中、ホテルや飲食店では厳しい状況が続いている。DI値が悪化したその他の業種からは、原材料の入手悪化や価格高騰、外出自粛により売上へ影響が出ているとコメントがあった。

先行きDIは▲21.1(前月比▲2.4)と改善を見込む。ワクチン接種への期待感はあるが、千葉県での緊急事態宣言の発出や変異株の感染拡大など、憂慮は続く。



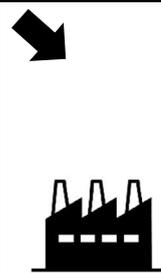
## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



### 建設業

「社員全員が快適に働けるような畳工場を目指して、設備投資をしたい(畳)」、「新型コロナウイルスによる現場での仕事制限や、従業員の家族に陽性者が出て出勤できないなどの悪循環が重なり、仕事に大きく影響(とび)」、「緊急事態宣言が出たため景気後退は避けられない。コロナ不景気はまだまた続くだろう(塗装工事)」



### 製造業

「受注は好転してきており、昨年並の水準に上がってきているが、コロナや半導体不足、アメリカ寒波の影響の深刻度が強まり、資材等の入手悪化や価格上昇が続いているのが最大の懸念点。受注はあっても装置が製造できない事態になりかねない(機械・同部品)」、「コロナ対応に加えて熱中症対策も実施。客先の生産調整があり順調だった製品の売上が足踏み状態に。材料費が高騰し、上がり具合によっては価格に反映しなければならない(金属製品)」、「今期はコスメ関連の容器受注は壊滅状態(プラスチック加工)」、「飲食店の酒類提供自粛や時短営業の影響で、製造数量の減少が大きい。オリンピックも無観客となり売上が伸びない。現在も新規感染者が増加しており、今後も厳しい(酒類)」、「ワクチン接種が進まない中、外部からの感染が心配。コロナ対策もだが、社内マスク着用を義務化しているため、熱中症には万全な対策をとっている(鉄鋼)」、「原材料(金属・樹脂)の高騰が課題。また、デジタル人材が不足(金属素形材製品)」、「徐々に営業活動を再開しているが、第5波の到来、緊急事態宣言で8月31日まで出張禁止にした。プラスチック原料の高騰による顧客との値上げ交渉では、景気が影響し満額回答は無かった(化学工業)」、「6月から対前年比売上は、コロナ前の水準に戻った。オリンピックとコロナ変異株の状況、ワクチン接種のスピードが懸念材料(自動車付属品)」



### 卸・小売業

「再びまん延防止等重点措置区域となり、猛暑も重なり、買物は通販等で済ませられそう(各種商品小売)」、「ワクチンの普及で徐々にコロナの影響は落ち着きそう。しかし、以前のような飲食店での外食、イベント参加は少なくなると思う。家ででの生活をキーワードとして、在宅が快適になるグッズやサービスはまだまだ良くなると思う。食品スーパーとしても、家ででの食事が楽しく、意味のあるものにしていかなければならない(各種食料品小売)」、「菓ごもり関連商品は好調に推移しているが、外出着が昨年度よりもでも低迷。旅行に行けないので、地方銘菓などは非常に好調(大型小売店)」、「納品先でコストカットを実施しており、一部商品が打ち切りに。B to B、B to Cともに生き残るのは大変だと思われた(農畜産物・水産物卸売)」



### サービス業

「まん延防止等重点措置が一時的に解除されたが、酒類の提供時間は変わらなかったの、食堂の売上に効果が無かった(ホテル)」、「昨年比、夏期講習の受講率がとても高い。経営的にはありがたいが、保護者や生徒の気のゆるみが心配(学習塾)」、「来年は駅前を中心に10~20年前と同じような直球の商業祭りをしてほしい(不動産賃貸)」、「売り物件が減少し、不動産の仕入価額、売買価額も上昇。取引件数が大幅に減り利益が減少している(不動産管理)」、「お酒の提供90分2名までと営業時間短縮により、夜の売上減少が大きい。8月の緊急事態宣言によりお酒の提供ができなくなることで、週末の慶事・法事に影響が出て、さらに売上減少が大きくなる(日本料理)」、「移動制限、テレワーク等で浮いた時間を仕事の勉強に当てている(不動産賃貸・管理)」

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲23.5に対し、「CCI-LOBO」が▲24.1で柏の方がマイナス幅が0.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上悪い。